

合併20年の成果と課題は 更に政策の適格性とスピードを



こまつ たかし
小松 孝年 議員

問 合併20年を迎え合併による成果と、今後の新たな課題はあるか。

答 大西町長

合併特例債を活用し、積極的なインフラ整備を進めてきた。その特例債も、本年度をもって終了、交付税についても合併後10年間とその後5年間の激変緩和措置期間を経て、令和3年度からは一本算定となり、これまで以上に慎重な財政運営が求められる。

福祉施策や防災、将来への投資となる教育や産業施策、インフラ整備等、積極的な政策展開をしていかなければならない。

合併後一定期間は、政策的にその恩恵にあずかることができたが、今後一層、財政的制約が強まり、かつ進む人口減少化では、これまで以上の政策の適格性、スピードが求められる。

問 賑わいのあるまちづくりにおいてのスポーツツーリズムの位置付けと重要性を問う。

交流人口
スポーツツーリズムの位置付けは
町の賑わいづくりに寄与している



閉町の碑(旧佐賀町)



閉町の碑(旧大方町)

答 秋森 産業推進室長

令和6年度の実績は、宿泊者数は1万2千865人泊、誘致団体数は延べ411団体、町内経済波及効果は、推計で約1億4千446万円と算出している。

スポーツツーリズム事業は、町全体宿泊数の過半数を占める状況にあるとともに、選手のプレーを間近で見られるだけでなく、各種交流活動等に協力いただき地域住民との交流も深めながら、町の賑わいづくりに寄与していると認識している。

問 全国的に有名な高校のチームやプロのチームも来ているが、それをどれだけ町民の方々に知っていたか、今からの課題であり、そういったことが子どもたちにとっても自分の育った町が誇りの持てる町になるのではないか。

答 大西町長

もう少し町民の皆さまにも広げさせていただき、町全体でお迎えできるような、そういったところに昇華させていくのが自分たちの次のステップではないかと、考えています。



ラインメール青森のサッカー教室

【その他の質問】
・令和8年度の予算編成について。